

様式1(主な取組)

活動指標名	留学派遣者数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	99人	85人	87人	0	0	100人	0.0%	0	未着手	<p>活動概要</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和2年3月、派遣生の安心・安全の観点より、事業（R元年度派遣）を中止し、全派遣生の帰国。さらに、R2年度及びR3年度は、世界規模での新型コロナウイルス感染拡大であったため、生徒の安全・安心の観点より事業を中止。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>活動指標の「留学派遣者数」が計画値に達しなかった理由は、R3年度は、世界規模での新型コロナウイルス感染拡大であったため、生徒の安全・安心の観点より事業を中止したため。</p>
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<p>・短期研修派遣を通して、留学に対する意欲の拡大が図られるため、短期研修参加者に、事前・事後研修等で留学の応募を勧め、意識の高揚を図る。</p>						<p>・R3年度の短期海外研修事業は、世界規模での新型コロナウイルス感染拡大であったため、生徒の安全・安心の観点より派遣を中止したが、生徒の国際理解教育の取組として、オンラインによる代替事業を実施した。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・約1年間の海外留学において、派遣生は異文化への適応や外国語でコミュニケーションを図ることに対する不安がある。

○外部環境の変化

- ・新型コロナウイルス感染症の世界的流行 (感染症の世界的拡大)
- ・国際情勢の変化等による治安上の問題

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・派遣生は留学生活に必要な異文化への適応や外国語でコミュニケーションを図ることに不安があるため、生徒の海外派遣・交流に係る他の取組との連携により異文化コミュニケーションスキル及び外国語運用能力の向上を図る必要がある。

・外務省等からの迅速な情報入手、派遣先の受入団体との連携により、派遣生の安全確保に向けたプログラム運営体制を維持する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・R4年度から新規に立ち上げるオンライン国際交流プログラムへの参加を促し、留学前に異文化コミュニケーションを実際に体験する機会を提供する。
- ・新型コロナウイルスの感染状況及び国際情勢の変化を注視し、生徒の安心安全の観点から適切な派遣先を決定する。

様式1(主な取組)

活動指標名	派遣数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	50人	40人	40人	0人	40人	40人	100%	8,766	順調	アメリカの州立大学へR3年7月から8月に約3週間、高校生40人を派遣し、語学、リーダーシップ研修を通してアメリカの大学生活を体験する予定であったが、新型コロナの影響により、オンラインによる代替研修を実施した。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										R3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、海外への渡航はできなかったが、オンラインでの代替研修で、モンタナ州立大学のオンライン授業や現地大学生・ホストファミリーとのオンライン交流等を実施した。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地研修をより深い学びへと繋げるため、ホームステイや学校生活を想定した実践的な英語運用能力をより高める研修や異文化理解についての研修を実施。 ・ 実践的な語学力を測る英作文試験や、積極性、コミュニケーション能力を測る面接試験内容の構築。 ・ 事前研修からオンライン研修を取り入れ、新型コロナウイルス感染症等の影響で海外派遣できない場合は、代替研修としてオンライン（オンデマンド）研修等を実施する。 						<ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン研修において、アメリカ、モンタナ州立大学のオンライン授業を受講し、現地大学生やホストファミリーとのオンライン交流を通して、英語運用能力を高め、異文化理解も深めた。 ・ 実践的な語学力を測るため、英語作文やプレゼンテーション審査を現地大学の講師が行った。 ・ 新型コロナの影響により海外派遣ができなかったため、オンラインによる代替研修を実施した。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・短期研修において、語学力やグローバルリーダーとしての主体性を養うためには、渡航前の事前研修を重点的に実施する必要がある。

○外部環境の変化

・テロや感染症等、世界各地での治安および健康上の問題に留意し、海外派遣については判断する必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・オンラインを活用した事前研修において、現地大学で行う学びの先取りやホストファミリーとの交流等を行い、渡航した際には、円滑かつ期間を集中させた研修を実施する必要がある。

・外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、研修先大学および委託先と連携を図り、オンラインを含む研修方法を準備する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・オンラインを活用した事前研修を充実させ、実際に渡航した際のコミュニケーション・エラーを軽減し、円滑かつ期間を集中させた研修を実施する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進	施策	② 観光交流、経済交流等の推進
			施策の小項目名	○学術・文化・地域間交流等の推進
主な取組	海外サイエンス体験短期研修(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)			
対応する主な課題	③歴史的・地理的特性により培われた沖縄の発展可能性は、諸外国・地域との交流と連携を深めながらともに発展していくという取組の中で特に発揮されるものであり、観光・学術・文化・経済など様々な分野における国際交流や地域間交流を強化し、交流の架け橋となる人材の育成や人的ネットワークの構築等により交流基盤としてのウチナーネットワークを強化・拡充することが必要不可欠である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
グローバルな視点を持った世界で主体的に活躍できるリーダーを育成する基礎作りを図るため、海外での研究機関等の訪問、現地高校・大学等での授業参加などを通して理系分野の人材育成の基礎作りを図る。		25人派遣数				
実施主体	県	県内高校の生徒を外国の高等学校等へ派遣し、理科系の科目を中心に受講させる				
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課	【098-866-2715】				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源		
海外サイエンス体験短期研修(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)									OR3年度： オーストラリアへ11日間、高校生25人を派遣する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により代替研修(オンライン研修)を実施した。	
一括交付金(ソフト)	委託	12,795	10,827	6,032	0	14,484			OR4年度： 令和3年度で終了。活動内容の一部はアジア高校生オンライン国際交流事業等で実施予定。	
予算事業名							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源		
									OR3年度：	
									OR4年度：	

様式1(主な取組)

活動指標名	派遣数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	25人	20人	0人	0人	25人	25人	100%	14,484	順調	オーストラリアへR4年2月に11日間、高校生25人を派遣し研究機関等の訪問、現地高校大学等での授業参加などを通して理系分野の人材育成の基礎作りを図る研修を実施する予定であったが、新型コロナの影響により、オンラインによる代替研修を実施した。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										R3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、海外への渡航はできなかったが、オンラインでの代替研修で、現地研究者の講義受講や現地高校生・大学生とのオンライン交流等を実施した。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地研修をより深い学びへと繋げるため、事前研修で探求テーマに取り組む「サイエンスイマージョン研修」を実施。 ・ 実践的な語学力を高めるため、生徒選考時における英語面接試験内容および事前研修での語学研修方法を構築。 ・ 事前研修からオンライン研修を取り入れ、新型コロナウイルス感染症等の影響で海外派遣できない場合は、代替研修としてオンライン（オンデマンド）研修等を実施する。 						<ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン研修において、現地研究者の講義や現地高校生・大学生との意見交換等を行い、個人およびグループの探究テーマに取り組み、発表した。 ・ 実践的な語学力を高めるため、ファシリテーター役として本事業を経験した大学生を活用し、英語を使つての交流や発表方法のスキルアップを図った。 ・ 新型コロナの影響により海外派遣ができなかったため、オンラインによる代替研修を実施した。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・現地研究者への質問が円滑に行えるよう、ファイシリテーター兼通訳をおいた。また、現地高校生との交流は4～5名のグループで行い、研修の前半および後半に複数回機会を設けるなど、主体的に英語で話せるような研修の場面設定が必要である。

○外部環境の変化

・テロや感染症等、世界各地での治安および健康上の問題に留意し、海外派遣については判断する必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・オンラインを活用した研修によって、多くの高校生が海外と繋がるのが可能となるため、国際交流の機会拡充を行う必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・令和3年度で終了。活動内容の一部はアジア高校生オンライン国際交流事業等で実施予定。

様式1(主な取組)

活動指標名	派遣数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	20人	20人	0人	—	20人	20人	100%	7,090	順調	中国・上海へR4年2月から3月に13日間、高校生20人を派遣し、異文化体験や現地高校生との交流を行い、中国語の習得および中国文化への興味関心を高める研修を実施する予定であったが、新型コロナの影響により、オンラインによる代替研修を実施した。
活動指標名					R3年度					
実績値										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
活動指標名					R3年度					
実績値										
活動指標名					R3年度					
実績値										
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度 of 取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 事前研修において、中国の文化や語学力の向上を図る研修内容を構築し、現地研修後には語学力の達成状況を確認するため、各派遣生徒のレベルに応じた中国語検定取得を目指す。 事前研修からオンライン研修を取り入れ、新型コロナウイルス感染症等の影響で海外派遣できない場合は、代替研修としてオンライン（オンデマンド）研修等を実施する。 						<ul style="list-style-type: none"> オンラインによる中国語講座を実施し、基礎的な会話や簡体字を学んだ。また、グループ別に現地高校生とのオンライン交流を実施し、言語力の向上に努めた。 新型コロナの影響により海外派遣ができなかったため、オンラインによる代替研修を実施した。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・短期研修において、語学力やグローバルリーダーとしての主体性を養うためには、渡航前の事前研修を重点的に実施する必要がある。

○外部環境の変化

・テロや感染症等、世界各地での治安および健康上の問題に留意する必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・オンラインを活用した事前研修において、現地研修先で行う学びの先取りや現地学生との交流等を進め、渡航した際には、円滑かつ期間を集中させた研修を実施する必要がある。

・外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、研修先大学および委託先と連携を図り、オンラインを含む研修方法を準備する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・オンラインを活用した事前研修を充実させ、実際に渡航した際のコミュニケーション・エラーを軽減し、円滑かつ期間を集中させた研修を実施する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ア	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進	施策	② 観光交流、経済交流等の推進
			施策の小項目名	○学術・文化・地域間交流等の推進
主な取組	沖縄県高校生海外雄飛プロジェクト			
対応する主な課題	③歴史的・地理的特性により培われた沖縄の発展可能性は、諸外国・地域との交流と連携を深めながらともに発展していくという取組の中で特に発揮されるものであり、観光・学術・文化・経済など様々な分野における国際交流や地域間交流を強化し、交流の架け橋となる人材の育成や人的ネットワークの構築等により交流基盤としてのウチナーネットワークを強化・拡充することが必要不可欠である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
沖縄とハワイ双方向において絆を深め、先の大戦によって焦土化した双方の悲惨な状態からの復興と平和、将来の展望等について、共に学び考える機会を設けることで、自国と他国の歴史や文化を真に尊重出来る、21世紀の国際社会に貢献する人材の育成を図る。		25人派遣数 約25人受入数				
実施主体	県	沖縄県高校生の派遣及びハワイ州高校生の受入による交流を実施				
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課	【098-866-2715】				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況							(単位：千円)			
予算事業名	沖縄県高校生海外雄飛プロジェクト						R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度：ハワイ州高校生を25名受け入れる予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、オンライン交流に切り替え実施した。	
県単等	直接実施	411	496	631	0	29	164	県単等	OR4年度：ハワイ州高校生を受け入れ、ホームステイ、学校生活体験、平和学習、学校訪問、沖縄文化体験等を実施する。	
予算事業名	グローバル・リーダー育成海外短期研修事業						R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度：ハワイ州へ高校生を25名を派遣する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、オンライン代替研修を実施した。	
一括交付金(ソフト)	委託	9,920	9,771	9,771	0	10,681	9,186	一括交付金(ソフト)	OR4年度：ハワイ州へ高校生25名を派遣し、ホームステイ、学校生活体験、平和学習、学校訪問、ハワイ文化体験、ツーリズム研修等を実施する。	

様式1(主な取組)

活動指標名	受入数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要		
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B					
	10人	13人	16人	0人	16人	25人	64.0%	10,710	概ね順調	ハワイ州高校生を25名受け入れる予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、オンライン交流に切り替えた。ハワイ高校生と沖縄高校生がペアとなり、オンラインで文化交流を行い、その体験をまとめて発表した。		
活動指標名	派遣数				R3年度					R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B					
	25人	25人	25人	0人	25人	25人	100.0%	10,710	概ね順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 ハワイ州へ高校生を25名を派遣する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、オンライン代替研修を実施した。 ハワイ沖縄連合会と連携し、沖縄とハワイの友好の歴史や平和学習、ハワイ州議会議員による講話及びオンラインディスカッションを含むツーリズム研修、ハワイ高校生との交流等を実施した。		
活動指標名	-				R3年度					R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B					
	-	-	-	-	-	-	-	10,710	概ね順調			
(2)これまでの改善案の反映状況												
令和3年度の取組改善案						反映状況						
<ul style="list-style-type: none"> ・ハワイ沖縄連合会、委託業者との連携強化を図り事前オンライン交流を導入するなどし、受入人数の増加を目指す。 ・派遣については、事前研修にオンラインを取り入れハワイの観光産業関係者より講話等を行い、現地では実地研修を主とするよう工夫する。 ・新型コロナウイルス感染症等の影響で受入や派遣が出来ない場合は、代替研修としてオンライン研修等を実施する。 						<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大のため、受入及び派遣は中止となったが、ハワイ沖縄連合会と連携し、オンラインに切り替えて代替研修を実施することができた。 						



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・ハワイ州から参加する高校生の日本語力に差異がある。
- ・観光立県を標榜する本件の観光産業を担う人材の育成を目的の1つとしていることから、関連するプログラムの拡充が必要である。

○外部環境の変化

- ・為替の変動によって、ハワイ州高校生の参加に影響が出る可能性がある。
(参考) H24:21名 H25:12名 H26:16名 H27:15名 H28:12名
H29:10名 H30:13名 H31:16名
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により海外渡航が出来ない状況がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ハワイ州高校生に沖縄の文化や歴史をより理解してもらうため、事前オンライン研修を充実させる必要がある。
- ・派遣する際に座学だけでなく実地研修を充実させるなど、観光産業に関するプログラムを拡充する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・ハワイ沖縄連合会、委託業者との連携強化を図り事前オンライン交流を充実させるなどし、受入人数の増加を目指す。
- ・派遣については、事前研修にオンラインを取り入れハワイの観光産業関係者より講話等を行い、現地では実地研修を主とするよう工夫する。
- ・新型コロナウイルス感染症等の影響で受入や派遣が出来ない場合は、代替研修としてオンライン研修等をさらに充実させ実施する。

様式1(主な取組)

活動指標名	派遣人数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	20人	20人	20人	0人	20人	20人	100.0%	4,777	順調	書道分野で活躍する高校生20名をコロナ禍で実際に台湾に派遣することはできなかったが、オンラインを活用した交流や講師を招聘しての実技指導を行った。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案								反映状況		
<ul style="list-style-type: none"> ・高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、より良い本研修、または代替研修に繋げる。 ・これまでに派遣されたOBや引率教諭、ファシリテーターを十分に活用し、派遣生徒各自の目標設定をしっかりと、目的意識や達成感の高揚に努める。 								<ul style="list-style-type: none"> ・高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、オンラインや対面式を活用した代替研修につなげることができた。 ・コロナ禍で行動が制限される中、多くの人材を活用し、事前研修、本研修、事後研修を通して生徒各自の目標設定をしっかりと、目的意識や達成感の高揚に努めた。 		



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・ 当事業を実施するにあたり、派遣生徒には英語コミュニケーション能力が求められる。
- ・ 県高等学校文化連盟、専門部及び旅行社と密に連携を図り、情報の共有化と互いの役割分担を明確にする必要がある。

○外部環境の変化

- ・ 新型コロナウイルス感染症等による感染拡大防止のため、航空便運航状況など渡航制限がありうる。
- ・ 燃料費高騰による航空運賃の値上げが想定される。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ 派遣生徒の英語コミュニケーション能力を高めるために事前研修を充実させる。
- ・ 新型コロナウイルス感染症状況を注視し、本研修の派遣時期を検討する。
- ・ 海外派遣が困難な場合、オンデマンド等の交流や県内での文化研修などの代替研修を行う。

4 取組の改善案 (Action)

後継事業においては

- ・ 本研修を効果的に実施できるように事前研修において、語学力向上の研修を充実させる。
- ・ 高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、より良い本研修、または代替研修に繋げる。

様式1(主な取組)

活動指標名	派遣人数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	54人	50人	44人	0人	44人	54人	81.0%	11,389	概ね順調	美術・工芸、音楽、郷土芸能分野で活躍する高校生44人をコロナ禍で実際に海外へ派遣することはできなかったが、オンラインを活用した交流や講義、講師を招聘しての実技指導を実施した。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										派遣人数は令和元年度から美術・工芸部門をそれまでの台湾20人からドイツに派遣するにあたり14人に変更したため減少となっている。
活動指標名					R3年度					オンライン交流においては、発言を求められる機会が増えたこともあり、活発に発言するなどコミュニケーション能力の高まりが生徒にみられた。
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、より良い本研修、または代替研修に繋げる。 ・これまでに派遣されたOBや引率教諭、ファシリテーターを十分に活用し、派遣生徒各自の目標設定をしっかりとし、目的意識や達成感の高揚に努める。 						<ul style="list-style-type: none"> ・高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、オンラインや対面式を活用した代替研修につなげることができた。 ・コロナ禍で活動が制限される中、多くの人材を活用し、事前研修、本研修、事後研修を通して生徒各自の目標設定をしっかりとし、目的意識や達成感の高揚に努めた。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・ 当事業を実施するにあたり、派遣生徒には就業体験等における英語コミュニケーション能力が求められる。
- ・ 県高等学校文化連盟、専門部及び旅行社と密に連携を図り、情報の共有化と互いの役割分担を明確にする必要がある。

○外部環境の変化

- ・ 新型コロナウイルス感染症等による感染拡大防止のため、航空便運航状況など渡航制限がありうる。
- ・ 現地での就業体験受入事業者の選定が必要となる。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ 派遣生徒の英語コミュニケーション能力を高めるために事前研修を充実させる。
- ・ 新型コロナウイルス感染症状況を注視し、本研修の派遣時期を検討する。
- ・ 海外派遣が困難な場合、オンデマンド等の交流や県内での文化研修などの代替研修を行う。

4 取組の改善案 (Action)

- ・ 本研修を効果的に実施できるように事前研修において、職業理解、実用的な英語コミュニケーション能力向上の研修を充実させる。
- ・ 高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、より良い本研修、または代替研修に繋げる。

様式1(主な取組)

活動指標名	提携地区数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	7地区	7地区	7地区	7地区	7地区	8地区	87.5%	0	概ね順調	新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、生徒の海外派遣ができない中、これまでに交流意向書を締結した地区を、代替的な取組として実施したオンライン交流において活用した。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			計画値8地区に対して、令和2年度までに7地区の海外教育委員会等と交流意向書を締結しており、概ね順調に進捗している。これまでに形成された海外交流拠点は、学校間姉妹校や高校生海外派遣事業の派遣先として活用されている。
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ICT技術を活用した国際交流の取組を実施している学校等の視察を行うとともに、先行事例について他の学校への周知を図る。 既存の交流意向書締結地域に対して、今後の交流継続及び交流のあり方について意思確認を行う。 国際交流推進委員会において、国際交流のための学校間・教師間連携の促進につながる多角的ネットワーク構築の方法について協議を行う。 						<ul style="list-style-type: none"> ICT活用による海外の教育機関等とつないだ国際交流のあり方について、県内大学と意見交換を行った。 既存の交流拠点である米国モンタナ州立大学と次年度の交流のあり方について意見交換を行った。 多角的な国際交流を促進するため、令和4年度から別事業においてICTを活用した新たな国際交流プログラムの実施を計画している。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・学校ICT環境の充実、教員や生徒のICT技術への習熟が進み、ICT活用による国際交流の取組を進めるための基盤が整ってきた。

○外部環境の変化

・国際交流の取組を進めるにあたり、新型コロナウイルス感染症の流行が継続しており、その影響について未だ予見が難しい状況にある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・コロナ禍で生徒の留学や海外研修の機会が失われている中、今後は従来の海外派遣に加えて、ICTを活用したオンライン交流によるハイブリッド型の国際交流により、生徒の外国語教育及び国際理解教育の充実を図ることが可能である。

・コロナ禍で世界的に人の移動が制限される中、海外の学校も生徒の国際理解教育について同様の課題を有しており、それらの国や地域を新たな交流先として開拓することで国際交流の推進を図ることが可能である。

4 取組の改善案 (Action)

・海外関係教育機関と連携しながら高校生の国際交流を促進する取組は今後も重要であるため、令和4年度から新規に立ち上げる「アジア高校生オンライン国際交流事業」において交流先の開拓に引き続き取り組む。